

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1093100012		
法人名	社会福祉法人 もくせい会		
事業所名	めいわCOMハウスグループホーム		
所在地	群馬県邑楽郡明和町大輪1768		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和6年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のケアの理念挙げているように、利用者の意思を尊重し、出来る限りご本人の様の意向に沿った援助を行えるように努力しています。また利用者様、職員が明るく楽しく生活が送れるように支援し、家事や日常生活での動作や体操等を行う機会を設け、今の状態を少しでも長く維持できるように援助を行っていきます。また身体の状態により、2つの棟での居室変更を行い、利用者様が生活しやすいように努力しています。
御家族様、ご本人の意向により看取り介護を実施しており、最後の時まで、その人らしい生活が送れるように援助していきます。

職員のヒヤリングから介護が好きな職員が多く、資格を取って意欲的に支援に取り組んでいることがわかった。資格取得により、これまでとは違ったものが見えてきたり、新たな工夫が生まれる等利用者のための質の高いサービスにつながる効果がある。また、2ユニットになり2年が経過したが、全体的に落ち着いた雰囲気があり、職員が新・旧両ユニットで勤務しているため利用者全員の状態を共有できたり、利用者にとってどちらが状態に適した棟であるか選択できる、といった2ユニットのメリットがうかがえた。職員が専門性を活かし、利用者に対するケアや居室づくりにも様々な意見を持ち、それらを支援に反映させる発信力を持っている。増設した事業所を外国からの介護者も含め、皆で支えながら、質の高いサービス提供を目指し実践に取り組む様子がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リネンの変更はおこなっておらず、毎朝理念を見るように義務付けて業務に入るようにしている。 その理念に基づいて援助するように努力をしている。	新棟ができたが理念は変えず、外国からの職員も含めた全職員は、引き続き理念をしっかり理解し、内容に沿った支援の実践に取り組んでいる、と管理者は評価している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃には参加しているが、新型コロナウイルス感染防止の観点のより、地域の方々との交流は持っていない。	民生委員や近隣に住む職員から地域の情報を得ている。また、民生委員からの相談にのったり、地域の防災訓練に参加したいので、情報があったら教えてほしいと、伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、地域の方々に認知症についての研修会等を実施する機会は作られておらず、活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービス内容については、運営推進会議にて報告している。助言等を受けてサービス向上につながっている。	隔月で区長、民生委員、役場(千代田町、明和町)担当者が出席し開催され、入居者の状況、事業所の現状報告、行事や事故報告について話し合っている。案内はしているが家族の出席がない。	運営推進会議の主役は本人と家族なので、事業所について関係者で話し合うことが望ましく、先ずは一家族から出席できるよう働きかける取り組みをしてはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要書類や相談ある際には、必ず保険者への訪問を行うなど、関係が保てるように努力している。	事故報告等の行政への連絡、報告、相談は施設長が担当し、連携を図っている。介護保険の申請代行、認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、年2回の勉強会を実施し、職員への周知は徹底しているが、玄関の常時解錠までは行っていない。	新棟は玄関が暗証番号で開く自動ドアで、上部に開閉のボタンがあり、自分で開けて出て行こうとする利用者には職員が付添っている。旧棟は鍵をつけたままで、職員が見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、年2回の勉強会を実施し、職員への周知を徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待の勉強会時に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際には、契約書の内容について説明を行い、説明が終わった後は、不明な点などについて伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱と用紙を設置しているが、それを使用しての儀意見は頂いていない。ご家族にアンケートも実施していないが、面会時に際や電話での対応の際に尋ねる対応をしている。	機会があれば家族と話がしたいと思っているので、「何かあったら相談にのります」と話している。家族からの献立が知りたいといった要望に応え、本人の食べたい物を家族に伝え、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、並び会議等にて職員なから意見が言えるように機会を作っている。	職員会議は多少できている。申送りの際、利用者へのケア、ベッドマットについて、居室を変えたほうがよい、といった意見があり、職員間で話し合い、支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等によって、非常勤が常勤に上がれるように、モチベーションを持てるような環境の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染防止の為、外部への研修を実施していなかったが、徐々に参加させている。施設内研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣施設との関係は作られているが、職員は法人内でしか交流を持っておらず、新型コロナウイルス感染防止の観点により、交流は持っていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、ご本人、ご家族と面談を行い、要望について確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず、ご本人、ご家族と面談を行い、要望について確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の段階で相談や面接時において、グループホームの入所以外のサービスが適切と考えられる時には、他のサービスの利用の検討を助言、説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一緒に行える事を作りだし、共に生活が出来るように環境を作っているが、出来る利用者の方の偏っているの でしっかりと対応は出来ていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出の援助など、職員が全て行わずに、「可能な範囲で家族にお願いをし、本人と家族が係れるように援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅等への外出は援助しているが、新型コロナウイルス感染予防の観点の為、館内ではなく、ロビーにて面会を予約制にして実施している。	面会 は新棟の玄関に限られているが、家族、親戚、近所の人の訪問があり、家族と外出、外食に行っている。また、旧友からの手紙を受け取ったり、携帯電話を持っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員で利用者同士の相性を検討・把握し出来る限り一緒に会話出来るように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に退去された利用者やご家族に必要なに応じて面会や面談を行い、支援が4出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中や行動を観察し、要望や意向を聞き取りしながら把握できるように努めている。しかし本人の奥にある意向をくみ取れているとは言い難い。	施設長がケアマネジャーとしても日常的に業務に携わっており、利用者の様子を把握しやすい状況にある。また、職員の話や記録から利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者台帳を作成し、本人・家族から聞き取りをし生活歴を確認したり、以前の暮らし方について把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者台帳などにおいて、個別の能力を記載しており、定期的に見直すことで現ぞう把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の家族と話し合いをしながらケアプランの原案を作成し、担当者会議を用いて職員と話し合っている。	家族がこちらでの生活の継続を望んでおり、ケアマネジャーが介護計画の作成を任せられている。ケアマネジャーが毎月モニタリングをし、3ヶ月ごと、また随時見直しをし、担当者会議を開いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを用いて日々の個人記録を打ち込み、必要に応じて申し送りノートを活用し職員に徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合型施設である事を活かし、他部署との協力を得ながら、その時々ニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状において、利用者が地域資源を活用しながら生活が送れるような環境設備や支援は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には必ず、かかりつけ医について家族と話し合い、希望する医療機関への受診を行っている。また管理者、看護師が通院援助を行なうことで、かかりつけ医との関係性を作り、相談が出来る環境を作っている。	かかりつけ医は協力医と選択できることを説明している。3名がかかりつけ医の訪問診療を受け、他の利用者は協力医の往診を受けている。皮膚科、眼科は家族支援、他は施設長が受診対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か起こった場合には、施設内の看護師やGHの看護師に連絡・相談を行い、適切な対処が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず管理者・看護師が付き添い、医療機関への情報提供を行っている。電話等で担当者と話をしながら、退院に向けての相談や調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応が必要な場合には早期に家族、かかりつけ医と相談を行い、決めた方向性で話し合いを行っている。その方向性については会議や送りノート用いて職員に周知を徹底し、情報を共有できるようにしている。	看取り対象者が1名、準備段階にある利用者が2名いる。家族の希望に沿って医師の選択をしているが、協力医は24時間体制に依拠することができる。必要に応じ段階的に話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修に参加しているが、全員は参加が出来ていないため、施設内で同じ内容を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は実施している。地域との協力体制は構築中である。	消防署の立会いはまだないが、年2回の総合避難訓練で火災や水害、地震を想定した2階への誘導訓練を実施している。2週間分の水、携帯食糧を備蓄し、常時十分な排泄用品を備えている。	自主訓練については、夜勤者も参加できるように回数を増やし、記録を残す取り組みをしてはいかかがか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の掛け方には配慮しているが、職員が忙しくなってしまうと少し配慮が欠ける場面が若干みられる。	わかっている職員が手薄になると、「ちょっと待ってください」と声かけをしてしまうことがある。共用空間では家族の話はしないよう心がけ、利用者のプライバシー確保に努めている。	利用者を尊重する点からも、立上がりのある利用者への配慮ある声かけや異性介助の際は挨拶のように「私でいいですか」と承諾を得る声かけを共有してはいかがか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人より希望があった場合には随時対応するように心がけているが、職員数が少ない場合には職員に合わせて頂く対応になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし a	本人が「したい」事を優先して対応を行っているが、それが出来る利用者が少ない。職員数が少ない場合には、職員の動きに合わせて頂く対応になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを行う際には、本人と相談しながら選ぶこともあるが、選べない利用が増えてきており全員に対応は出来ていない。また数名だが居室に鏡、櫛があり自分でセットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭きなど職員と一緒に行う対応している。年々出来る利用者が少なくなっており全体的に不十分である。食べられる利用者に対しては好みのものを提供している。	厨房で作った食事を配膳している。利用者はテーブル拭きや食器拭き等の手伝いを希望しており職員と行っている。2か月前からムース食を提供しており、外食や行事食、おやつを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に関しては栄養士が作成した献立となっている。食事量や水分量に関してはチェックを行い、摂取量、方法の検討をしながら個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に対して口腔ケアを行っている。自力で口腔ケアが困難な方には、自席にてガーグルベース・口腔スポンジ等を使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い排泄の間隔等を職員で把握し、トイレ案内のタイミングを見て対応している。	日中、夜間とトイレ誘導をしているが、夜間のみ紙パンツを使用する等、利用者の状態に応じた支援に取り組んでいる。トイレに近い居室を希望する利用者には自立支援として対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、排泄間隔を把握し、看護師に相談し、マッサージや下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日によって入浴間隔を決めているが、本人の希望や事情があれば随時入浴できるようにしている。	入浴は一人週2回を基本としているが、清潔保持のため1日複数回の時もあり、柔軟に実施している。入浴は1対1となり、時間をかけて話ができる機会となっている。	入浴は利用者が希望する時に入れるのが望ましく、風呂好きな人には回数を増やしたり、時間帯を工夫する等し、利用者が自ら選択する機会を作っ てはいかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力や生活のリズムの合わせて食後に休める時間を作れるように支援を行っている。また夜間はテレビを見てから寝る等、本人の意向に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に服薬の変更があった際には、必ず申し送りノートに記載し、必ず職員に伝える。 薬の一覧表を作成し提示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや清掃をおこなってもらう事や散歩に出かけるられるように支援しているが、出来る利用者が少なくなっており、十分に支援できていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が買いたいものがあると意向があった際には支援していおり、外出に関しては家族の希望がある場合には支援している。	日常的には気分転換に近辺の散歩や30分程度のドライブ、ホームセンターのペット売り場等に個別で出かけたり、スーパーの移動販売で買い物をする事もある。外出を増やす検討をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名は財布を持ち少額だが管理しているが、実際に使用する支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話を掛けたい意向があれば使用できるように設置しており支援している。携帯電話を持っている利用者也支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく季節を感じられる飾りつけを行い、利用者が季節を感じられるようにしている。また出来るだけシンプルに飾りつけて混乱しないようにしている。	共用空間には大き目のカレンダーや季節感のある物をその都度掲示し、定期的に5～10分程の換気を心がけている。大人の生活空間として飾付け等にも配慮し、落ち着いた雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	離れた場所や居室に椅子を配置しており個々に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人の使い慣れた物を持参して頂くように説明している。自分の部屋として居室が作られているのは数名しかいない。	居室には馴染みの物を持ち込み、仏壇等大切なものを置いている。ポータブルトイレや排泄用品は外から見えない工夫をしている。一人でいられる時間を過ごす充実した居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「トイレ」「便所」と張り紙するなどして自分の力で行けるようにしている。		